

語ろう！with/after コロナにおける老年看護実践・教育の挑戦

第1回 語ろう！with コロナにおける老年看護学実習

～新型コロナウイルス感染症下の臨地実習教育の経験から after コロナに向けて～

日時：2021年12月18日（土）14：00～16：00、オンライン開催

参加者：25人（申し込み37人、欠席12人）

内容：話題提供「新型コロナウイルス感染症下における臨地実習教育の経験」

①回復期リハビリテーション病棟での実習から：丸山優（埼玉県立大学）

②臨地実習で不足する教育内容を補う：鳥田美紀代（東邦大学）

③特別養護老人ホームでの実習から：三重野英子（大分大学）

グループワーク

新型コロナウイルス感染症下における臨地実習教育の経験/気づいたこと、発見したこと

1. アンケート結果（回答数22人、88.0%）

- 1)勤務先：「病院・事業所」3人（13.6%）、「大学・専門学校等の教育機関」18人（81.8%）
- 2)企画を知ったきっかけ（複数回答）：「メールマガジン」8人（36.4%）、「代議員・会員宛メール」7人（31.8%）、「学会ホームページ」5人（22.7%）、「役員・代議員の紹介」4人（18.2%）
- 3)企画は期待どおりだったか：「期待以上によかった」16人（72.7%）、「期待通りだった」6人（27.3%）
- 4)感想：「他大学や実習受入先の経験を共有でき貴重な学びを得た」「実習時間に制限がある中でどのように学びの環境をつくれるか他大学の経験から知見を得た」「実習をしている中で新たな発見がありぜひ共有したくなった」「試行錯誤しながら実践していることを共有し励みになった」「コロナ禍で頑張ってきたことが共有でき参加してよかった」「他大学の取り組みの工夫や臨床側の意見を聞くことができた」「他大学での工夫は勿論、臨床側の考え・工夫を聞くことができとても面白かった。まだまだ工夫できることはある」「コロナ禍でも得るものは多くあると実感し参加したが、本当に必要なことが浮き彫りになった」「大学教員の生の声を聞き、実習での学生へのかかわりにもう少し力を入れていきたい」「実状がわかり、実習を受ける側として参考になった」「学校側の考えを知り、実習を受け入れる側の体制について考え直す機会になった」「楽しく情報共有できた」「もっともっと聞きたいと思える内容だった」等
- 5)会員間で語り合う企画に対する希望：「希望する」21人（95.5%）、「希望しない」1人（4.5%）
希望するテーマとして「老年看護学の教育・実習のあり方」「臨地実習教育において重要なことは何か（体系化）」「SPを活用したシミュレーション教育の実際」「人生の最終段階の医療やケアに関する学生の学びの支援」「認知症についての教育」「認知症の家族支援」「急性期での老年看護」等

2. 総括

話題提供・グループワークをとおして、参加者が経験してきた臨地実習教育の様々な【工夫：実習時間や人数の制限がある中で、実習目的をふまえて実習施設側と共に受け持ち選定を丁寧に行う、短時間でもかかわった事実を学内で振り返り整理・意味づけする等】や【発見：学内での振り返りは学生にとって学びが大きい等】、【課題：高齢者に直接かかわる機会をいかにつくるか、学生の高齢者理解につながる自ら気づく体験をどう促すか、教育実践経験を整理し体系化することでafterコロナの臨地実習教育のあり方を検討する等】を共有した。教員にとっては、教育経験を分かち合い励みになったとともに、実習教育において何が大事かを考える機会となった。少数の参加ではあったが実践者にとっては、教育側の意図・方法を知り、実習の受け入れを検討する際の視点を獲得する機会となった。